

～ 日本海難防止協会シンガポール連絡事務所発SRO news ～
(Ref No : 18-036)

1 サンフランシスコ沖で実施された（船舶とごみ回収装置を利用した）大規模なプラスチックごみ回収プロジェクト（2,000万US\$規模）の回収装置からごみの流出が続いたため、装置を修理へ

[原文](#)

(20 December 2018, The Guardian)

2 パラオは2019年のナウル協定漁業大臣会合を主催する予定（パプアニューギニア、ソロモン諸島、パラオ、ミクロネシア、ナウル、マーシャル諸島、キリバス、ツバル、トケラウの大臣が参加し、漁業政策を採択する予定）

[原文](#)

(21 December 2018, Radio NZ)

3 日本政府は、JICAを通じてツバルの多目的船建造を支援（約4億6,300万円相当）

[原文](#)

(26 December 2018, FijiSun.com)

4 シンガポールの研究者が、プラスチックごみのエアロゲル化（高い断熱性を持ち、空気を含む固形物）に成功（防火服等の生地への応用が可能）

[原文](#)

(2 Jan 2019, Channel News Asia)

5 「パラオは持続可能な未来のために、海洋監視、再生可能エネルギー、気候変動、非感染性疾患等の対策の先頭に立つ」とパラオ大統領が記者会見で明言（海洋監視については、日本、アメリカ、オーストラリア及び近隣島嶼国と協力を継続することも明言）

[原文](#)

(2 January 2019, Island Times)

※以下のIsland Timesは、時間帯によってアクセスできない場合がございます。

その際は、お手数ですが時間をしばらくおいてから再度お試してください。

6 【パラオ政府観光局公表】パラオへの2018年の訪問者が106,309名となり、2010年以降最低を記録（2016年以降減少が続き、2018年のパラオへの2路線の直航便撤退が影響）

[原文](#)

(4 January 2019, Island Times)

7 2019年に、多くの太平洋島嶼国で選挙が実施（キリバス、ミクロネシア、ナウル、ツバル、マーシャル諸島において国政選挙、ソロモン諸島においてRAMSI（ソロモン地域支援ミッション）部隊撤退後の初の総選挙、パプアニューギニア・ブーゲンビル島（ブーゲンビル自治政府）の独立に関する住民投票等）

[原文](#)

(7 January 2019, Development Policy)

8 ナウル大統領は、台湾を訪問し、同国総統と会談。総統はナウルが国際的な場において台湾を支持していることに感謝を表明

[原文](#)

(8 January 2019, TaiwanNews)

9 マーシャル諸島の北部環礁に、中国籍の漁業運搬船が座礁（この漁業運搬船の同海域での行動と座礁に疑問が生じており、マーシャル諸島政府は職員を派遣し、捜査を実施予定）

[原文](#)

(8 January 2019, Radio NZ)

10 昨年12月3日からシンガポール領海に錨泊していたマレーシア海事局の設標船（Polaris）が、同領海から出域（注. Channel News Asia はシンガポールに拠点を置く会社）

[原文](#)

(9 January 2019, ChannelNewsAsia.com)

11 マレーシア海事局の報道官は、同局設標船（Polaris）と交代した設標船（Pedoman）はマレーシア領海内に錨泊していると発表（シンガポール領海内に設標船（Pedoman）が錨泊しているとする報道に反論し、当該海域はマレーシア領海であると主張）

[原文](#)

(9 January 2019, Bernama)

12 プラスティック問題の解決に向けて、自然の力のみを利用した国際ボートレースが開催（イースター島からフランス領ポリネシア、トンガ、サモアを経由してフィジーに寄港。海上のプラスチック問題の解決に向けてその機運を高める狙いがあり、研究者がボートに乗船し、マイクロプラスチックの調査を実施）

[原文](#)

(10 January 2019, Radio NZ)